

広報

もり 中部の森林



写真：「千畳敷から極楽平へ向かう途中の青空とチングルマの綿毛」
(南信署(中央アルプスグリーン・サポート・スタッフ)提供)

特集

- ・小林式誘引捕獲法の現地検討会を管内3箇所で開催！

各地からの便り

- ・赤沢自然休養林を活用した信州大学の演習に参加
- ・広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会を開催 (ほか)

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り「森林から考えるモノづくり」
オークヴィレッジ株式会社 小木曾 賢一



林野庁中部森林管理局

2023/No.234



7月26日～27日 南信署東俣国有林において開催された現地検討会の様子（参加人数：70名）



8月29日 愛知所段戸国有林にて（参加人数：60名）



8月28日 岐阜署七宗国有林にて（参加人数：64名）

**小林式誘引捕獲法の
現地検討会を
管内二箇所で開催！**

【技術普及課】

近年、ニホンジカ（以下「シカ」）による樹木の食害や剥皮被害は、確実な再造林や適切な森林整備の実施に大きな支障を及ぼしています。また、こうした被害の拡大によって林内の下層植生が消失し、土壌が流出するなど、森林の有する公益的機能の発揮に影響を与えるおそれがあります。

中部森林管理局では、その対策として、防護柵の設置やくくりわなによるシカ捕獲に取り組んでいますが、特にくくりわなは「けものみち」を選んで設置する必要があるので、経験と技術が高く求められます。

そこで、初心者でも簡単に効率よく捕獲できる「小林式誘引捕獲法（以下「小林式」）」を考案し、これを普及した功績により昨年度「人事院総裁賞」を受賞した、林野庁職員の小林正典氏を講師に迎え、南信署、岐阜署、愛知所の国

有林内において現地検討会を開催しました。

延べ四日間の検討会には、森林管理署をはじめ、各県や市町村の職員、地元猟友会などから約二百名が参加し、設置方法だけでなく、設置後の状況確認など、丁寧な指導を受けました。なお、小林氏は小林氏が近畿中国森林管理局に勤務していた際に考案したもので、同局で作成された動画で紹介させていただきます。



●小林式の特徴

シカが餌を食べようとする際、前足を餌の近く（口元）に置くことや石を踏まない習性を利用したもので、確実にわなを踏み込むよう、わなの外周に石を置き、その外縁部に餌を撒くことが特徴です。

餌で誘引することから、初心者でも簡単に設置できるほか、設置後の見回り負担や捕獲個体の運搬のことを考慮して、車でアクセスしやすい場所に限定して設置することも可能です。

●小林式設置方法のポイント



ワイヤーの部分なども枝葉でしっかりと隠す



石の周囲に餌を撒く（見回りの際に必要に応じて補充等を行う）



踏み板とバネの上にサラサラの土をかけ金具等を隠す



事前に「米ぬか」や「ハイキューブ」などで餌付けし、餌がよく食べられている場所にわなを設置する



石が固定されているか、わなの金属部分が見えていないか、踏み板の上に大きな枝葉や餌が乗っていないかなど、最終確認を行う



石の平らな面をわな側に密着させ、地面から指2本ほどの高さになるようにわなの外周に埋め込む

●小林式の効果について

捕獲効率は、シカの生息密度や周囲の環境の影響を受けるため、従来の方法と単純に比較することは困難ですが、奈良県の実証試験では、従来と比較して、捕獲効率が五倍に増加した事例などがあります。

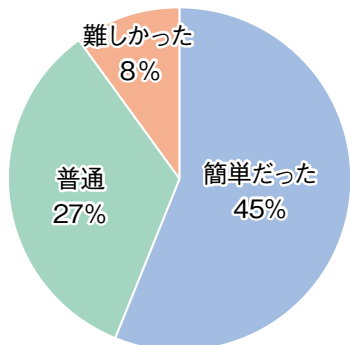
この度、南信署で行った現地検討会では、一日目に約三十基のわなを設置し、翌日には四頭捕獲することができました。



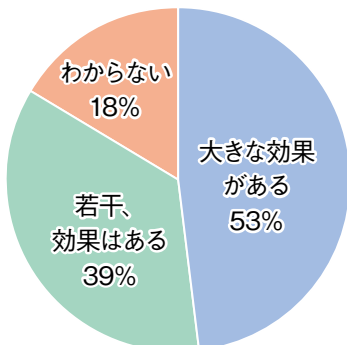
捕獲されたメスジカ

当局では、今後とも森林被害等の低減に向けて、地域の自治体や関係者と連携し、捕獲と防護の両面で対策に取り組んでまいります。

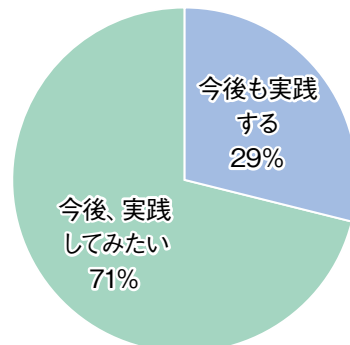
最後に、現地検討会参加者の皆様にアンケートを実施しましたので、その一部（わな捕獲経験者分）をご紹介します。



「小林式誘引捕獲法」は簡単でしたか？



「小林式誘引捕獲法」は通常のをと比較して効果があると思いますか？



「小林式誘引捕獲法」を実践してみたいと思いますか？

**赤沢自然休養林を活用した
信州大学の演習に参加**

【木曾森林ふれあい推進センター・木曾森林管理署】

七月二十一日、木曾郡上松町の赤沢自然休養林（以下、「休養林」）において、信州大学農学部 of 森林生態学演習が行われ、当センターと木曾署の職員が講師として参加しました。

人材や資源の活用を図りながら、人材育成を促進することなどを目的とした「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定」を締結しており、様々な活動を行っています。今回は、その一環として国有林のフィールドを活用した演習が行われたもので、学生三十一名が出席しました。最初に休養林の概要と木曾ヒノキ林の成り立ち、休養林がエリアの一部に含まれている「生物多様性復元地域（愛称：木曾悠久の森）」の取組などを説明し、その後、班に分かれて休養林内に入り、森林構造や木曾ヒノキ等の天然更新プロセス、立地環境について観察

してもらい、学生主体のグループ・ディスカッションを行いました。

学生からは、「木曾ヒノキ林といても、サワラや広葉樹も生育することが観察できた」「天然更新している樹種はヒノキよりアスナロが多いことに興味を持った」といった感想が聞かれました。



休養林内の赤沢森林交流センターにて説明を受ける大学生

**油圧式集材機・架線式グラップル
の現地見学会へ参加**

【資源活用課】

七月二十七日、岐阜県郡上市の民有林において、林野庁補助事業である「最新式集材機と ICT ハーベスタ等を核とした主伐・再造林システム実証・普及事業」（油圧式集材機・架線式グラップルシステム）の現地見学会が開催され、名古屋造林素材生産事業協会会員の方々を中心に約三十名が参加しました。

はじめに、現地に設置された油圧式集材機等のメーカー担当者から機能や特性、実際に使用する際の注意点などについて説明を受けました。この最新型の集材機の特徴は、木材の荷掛けや荷下ろしが遠隔操作により行えることで、従来型よりも安全に、かつ少人数で作業を行うことが可能となります。

特に架線式グラップルは、リモコン操作により機械が伐倒木を掴んで運ぶため、人が伐倒木に触れずに集材できることから参加者の

関心を集めていました。

説明後にはデモストレーションが行われ、山の斜面から伐倒木を吊り上げ、搬出して荷下ろしをするまでの一連の作業を見学しました。

最後に行われた質疑応答では、「架線を張るのにどのくらいの期間が必要か」「何人体制で作業を行っているのか」など、生産性の向上や現場の実行体制などについての質問が多く出されました。

今回の見学会を通じて、さらなる民有林との連携強化を図るとともに、林業労働の安全性の向上や省力化、生産性の向上に取り組んでいきたいと考えています。



架線式グラップルで伐倒木を運搬する様子

南アルプス 外来植物除去活動を実施

【南信森林管理署】

七月二十八日、南アルプス食害対策協議会が主催する外来植物除去活動を伊那市長谷地区の南アルプス林道沿いで実施しました。

今回は、夏休みを利用した体験学習として、長谷小学校の児童三十四名も参加し、同協議会の構成機関である伊那市、信州大学農学部、環境省、当署の職員など、総勢五十四名で行いました。

除去作業に先立ち、標高一、七〇〇メートル付近の歌宿にて、伊那市職員より除去すべき植物について説明を受け、その後、南アルプス林道の玄関口である戸台大橋へ向けて、林道沿いの外来植物を除去しながら下山しました。

最も多く除去した「ヒメジョオン」は、花が咲いていないものもあり、特定に苦慮しましたが、特徴が似ている在来植物の「ノコンギク」との違いをしっかりと確認し、慎重に除去していきました。また、植物の名前や対岸の景勝地などに



ついて学ぶ児童たちの姿も見られ、活気ある有意義な一日となりました。

約十年間にわたる毎年の除去活動により、以前より外来植物の数は少なく、背丈も小さいものがほとんどでしたが、完全に除去することの難しさを実感しました。

活動中、貴重な在来の蝶である「アサギマダラ」も確認され、これらの保護や南アルプスの景観を守るためにも、今後とも関係者と連携し、外来植物除去活動に取り組んでまいります。



外来植物の説明を聞く長谷小学校の児童

高瀬渓谷 フェスティバル2023に参加

【中信森林管理署】

七月二十九日、大町市にある大町ダム管理所において、高瀬渓谷フェスティバルが開催されました。

毎年、国土交通省と長野県が制定した「森と湖に親しむ旬間」に行われるイベントで、当署は「ネイチャークラフト」と称して、小さな木工作品作りのブースを出展しました。

参加者は自由な発想で、森の中にある木の実などを使って、木製コースターの上にウサギやネズミといった動物を作り出すなど、様々な作品づくりに取り組み、完成した作品を手に「かわいい」「たのしかった」と満足そうな笑顔を浮かべていました。

松ぼっくりのような身近にあるものから、トチの実など普段見かけないものまで、いろいろな森の恵みを使ったものづくりは、既製品に囲まれた日常生活から少し離れてみる良い機会になったようでした。



お気に入りの木の実などで作品づくりを楽しむ親子



参加者のオリジナル作品例